

白い蝶

有森信二

生まれるときのことを知っている
俺は、魂魄となつて降りてきた
行く先はきつちり決まつていた
選ぶも、選ばぬもない
もう少しはましな器量持ちの方が良い
などと言う間もなかつた
不格好な縫いぐるみの一点めがけ
真つ逆さまに降りてきた

もう、ただ泣き叫ぶほかなく
その縫いぐるみに包まれた俺は
三反百姓の糞尿にまみれて育ち
一念発起して、安給料取りになつた
しかし、いつもドブ板を踏むばかり
頭も白く、髭も白くなつてきたけれど
これからのことなどほとんどわからないし

この頃は半分呆け眼のまま出退する

俺が現場で下す判断が当たっているのか
そうでないのか

肝心の縫いぐるみの綻びもかなりのもので
ドッグに入ってみてはいかがです
などと意味深長な忠告を受けたりもする

夜中にふと目覚め

俺は魂魄となつて降りてきたのだつた

との思いに浸つたりしていと

そんなときに限つて緊急用の携帯が鳴り

組んだばかりの足場に妙な紐が揺れている

などという奇天烈な連絡が入る

急ぎ呼んだタクシーを待つ間に

降りてくるところはきっちり決まつて

いたのだつたが

上るところははて という疑念に取り込まれ

茫々とした気色のまま眼玉をめぐらせば

路地から大通りへ曲がり行く霊柩車の屋根に

真白い揚羽が 画然と翼を広げるのを見た